ピアホームだより

2026．8．1

事例検討会Ⅱ

先月、当法人で定期的に開催している事例検討会が行われました。今回は、第２弾として重症熱中症になった事例から学びます。元々予定していた検討事例でしたが、開催日当日の前日、重症熱中症になり緊急入院となった重い例です。

１　重症熱中症とは、、

熱中症はⅠ度（軽症）、Ⅱ度（中等症）、Ⅲ度（重症）、Ⅳ度（最重症）に分けられています。Ⅳ度（最重症は、ガイドライン 2024 で新設された最重症群です。多臓器障害や深刻な意識障害を伴い、生命の危険が高い状態です。救急搬送と集中治療が必須になります。 重症熱中症では、高体温（体温 40℃前後）・意識障害（混乱、昏睡）・全身けいれん・血圧低下や循環不全・臓器障害（腎不全、肝障害など）が起こります。この例では、すべての症状が出現し、救急搬送されて ICU 入院となりました。精神障がい者手帳１級、難治性で重度の副作用もあり、クロザピンの服用をしていることもあり、治療にあたっても色々な問題点が浮き彫りになりました。

①　今回の事態に至る前に遅発性の副作用か新たな症状（見解が分かれる）と思われるジストニア、アカシジアかカタトニアが出現してきており、特に駆けずり回ることからケガをして救急に運ばれる状況が出現していました。今回も、同様なことが起こり、長時間倒れこんでいる内に重症の熱中症になったものと考えられます。

②　クロザピンは、どの施設でも対応できるわけでなく、ICU 入院中の服薬が大きな問題となりました。救急医療機関の精神科医と薬剤師が検討対応して、経管投与対応が行われました。

参考）クロザピン患者モニタリングサービス (Clozaril Patient Monitoring Service：CPMS)に登録された医師・薬剤師のいる登録医療機関・薬局において、登録患者に対して、血液検査等の CPMS に定められた基準がすべて満たされた場合にのみ行うこととされている。

③　高熱に伴う横紋筋融解と腎機能障害が出現していました。クロザピンを粉砕し経管投与をすることになりましたが、腎機能障害の場合、投与量の設定が難しくなります。添付文書では中止となっている薬剤でした。

④　副作用にしろ症状にしろ、事前の体調悪化の兆候というものがあると思われますが、グループホーム暮らしの中で詳細が掴めない状況で、対策を練ろうとしていた矢先の出来事でした。今回の事故をきっかけに入院で原因と対処方法を見つけ、支援体制の見直しも行うことになりました。本人は、前日眠れなかったといって言っています。

⑤　統合失調症の患者は熱中症（ドーパミンが関与？）になりやすいとの報告もあるようです。陽性症状、陰性症状、認知機能障害の他、統合失調症の場合、あらゆる機能の低下があることを考えなくてはいけないと思われます。

2　温暖化で利用者誰にでも起こりうる熱中症

一般的な予防のポイントは、高温多湿環境での作業や運動を避ける、室内でも換気や冷房を活用、、十分な水分・塩分補給、高齢者や持病のある人は特に注意、重症熱中症は**短時間で生命に危険を及ぼす可能性**があるため、症状が進行する前に早期対応することが重要です。

８月の予定　15 日第 1 回理事会